

鉄系合金粉の新ライン

日本アトマイズ加工つくば工場に

日本精鉱子会社で微細金属粉末の製造・販売を手掛ける日本アトマイズ加工(本社、千葉県真野田市、木嶋正憲社長)は、つくば工場(茨城県牛久市)に電子部品向け鉄系合金粉末の製造ラインを新たに導入する。本社工場と合わせ、製造能力を

25%増の年産1000トン(溶解能力ベース)に増強する。投資額は約2億円で、今秋にも増設作業を開始する。

近年は、車載用途や電子回路向けパワートランジスタ(コイル)用の軟磁性材料として使われる鉄系合金粉の需要が堅調に推移している。IoT(モノのインターネット)化の進展により、電子部品需要は今後さらに伸びると予測される。

鉄系合金粉については現在、本社工場で製造しているが、能力的に増産の余地がなく、BCP(事業継続計画)による安定供給に対応するためにも、つくば工場への新規製造ラインの導入を決めた。電子向け部品は顧客による品質認証に時間を要するため、設備の立ち上げや量産開始の時期は未定だが、今後の需要増加に対応する。12年に設立した電子



つくば工場

部品向け金属粉の専用工場であるつくば工場は、これまで銅粉と一部の貴金属粉のみを製造していた。同工場は、

新設し、上工程から下工程まで一貫で製造する体制を整え、生産の効率化を図っている。

水アトマイズ法の要である水処理関連の設備をラインごとに独立させるなど、徹底した品質管理を実現している。今年1月には検査・梱包・保管などを行う倉庫棟を